K·I·F·A Plaza かわら版

発行日：2005年12月20日
かわら版　No.6号
発行：鎌ケ谷市国際交流協会
〒273-0195　鎌ケ谷市初富928-744
TEL　047-445-1141（内線550）
FAX　047-441-9400

鎌ケ谷市国際交流協会

楽しく「交流の輪」広がる！

華やかに「KIFAパーティ2005」開催

開会あいさつをする岡本靖子・ＫＩＦＡ会長（上）と祝辞を述べる清水聖士市長

各ブースリーダーからイベントの紹介があった

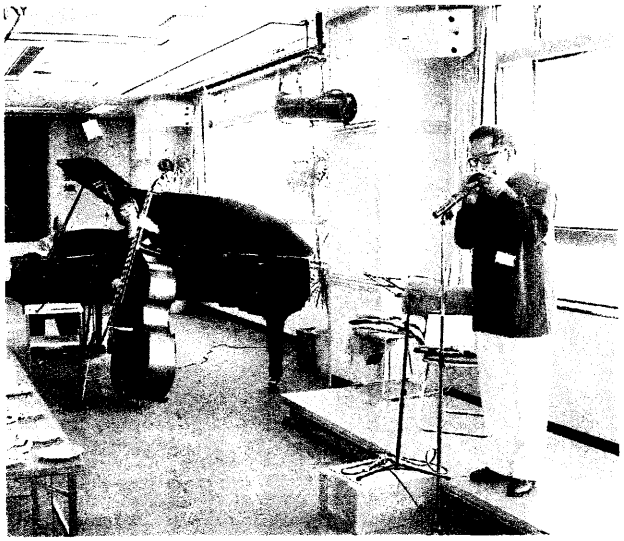
鎌ケ谷市国際交流協会（ＫＩＦＡ）の最大行事「ＫＩＦＡ Party２００５」が11月23日（勤労感謝の日）、市総合福祉保健センター大会議室で開かれた。

岡本靖子会長から、17年目を迎えたＫＩＦＡのボランティア運営・活動の紹介を兼ねたあいさつがあり、続いて清水聖士市長が各国のクリスマスや冬の情景などの体験談を交えた祝辞があった。また、来賓として隣接の柏市、我孫子市の国際交流協会の代表者が紹介された。次に会場にブースを設置したニュージーランド、韓国、ドイツ、子ども英会話、日本語講座の担当者、お茶席を開いた茶道協会がそれぞれ紹介され、ブース、お茶席への勧誘スピーチがあった。

田澤進二郎・前ＫＩＦＡ会長の乾杯音頭で全員「カンパーイ」。小栗淑子さんの総合司会でパーティが始まった。

（2, 3面に詳報）

お抹茶を味わう外国人参加者



世界一のハーモニカ奏者・藪谷幸男さんの演奏

11ヵ国の外国人ふくめ200人超す市民が参加

日本の伝統文化と在住外国人パフォーマンスが共演

★子どもたちに人気、各国ブース

各ブースでは各国の民族衣装などの展示、言葉遊び、子どものスタンプラリーなど盛りだくさんに繰り広げられた。（写真左上から）

ニュージーランド・ブースは今夏の「青少年ワカタネロングステイ」経験者らによる集い。

隣のキッズコーナーのフェイスペンティングでは、子どもたちと一緒に盛り上がっている。ドイツブースでは、手作りのお菓子が販売され収益金はユニセフに寄付された。

韓国ブースはクイズに当たると「おこげでできたアメ」がもらえるとあって、人だかりが絶えない。

日本語コーナーでは、子どもたちは易しい漢字読み、大人は言葉遣いクイズに首をひねる姿も。ＫＩＦＡ・広報コーナーでは１年間の活動パネルを展示、ＰＲにつとめ新規入会者の姿も目立った。

★魅せた！　ラテンのリズム

舞台ではラテンのリズムが情熱的にはじけた。コロンビア出身の陽気なパトリシア、ラウラさんによる華麗なダンス、スウェーデン出身のエーミル&あけみさんたちの激しいサルサが踊られた。会場から飛び入りでサルサを楽しむ人、舞台の下ではコロンビアダンスに大勢の輪ができた。

★８つのテーブルに談笑と会話の渦

各テーブルでも、さまざまな談笑の渦ができた。なかには習ったばかりの言葉で外国人と会話を試みたり、流暢なスペイン語で話している人もいる。ひときわ目立ったのはお茶会、着付け教室の皆さんが集まったテーブルにあでやかな和服の花が咲いた。

キッズとその父母が集まったテーブルでは、子どもたちから「大福が冷たくて、アイスみたいで美味しいね」と好評の声も？このパーティが楽しみで、市川から毎年来ているという女性２人は、「お料理が美味しくて、お腹も一杯で大満足。特にこのお煮しめはいいお味だ。来年もまた来ます」と、よろこんでいた。

ニュージーランドの女性は〝Ｔｈｉｓ　ｍｕｓｈｒｏｏｍ　ｉｓ　ｓｏ　ｇｏｏｄ！〟と言いながら椎茸の煮しめを食べていた。食事に関しては、皆さん満足されたようだ。

男性で初めて参加したという人は「ＫＩＦＡの存在を知らなかった、宣伝が足りないのではないか」と、注文をつけていた。パーティは最後まで終始にぎやかに、飲み物、食べ物も行き届き、参加者たちには十分に楽しんでいただいた。締めくくりに、エーデルワイスなどみんなが知っている歌を合唱して閉会となった。

★世界一のハーモニカ演奏

たくさんの飲み物とお料理が用意された８カ所のテーブルでは、大人も子どもも外国人を交えた参会者らが、自己紹介をし合いながら歓談の輪が広がる。しばらく歓談の後、ハーモニカで平成７年日本レコード大賞企画賞受賞した、世界一のハーモニカ奏者・藪谷幸男さん、ベースの池上里奈さん、ピアノ・石関博康さんによる素晴らしい演奏が披露された。

（１面の写真を参照）

★鎌ヶ谷市茶道協会による茶席に人気

会場脇のホールでは、鎌ケ谷市茶道協会（会長・松上宗良さん）による裏千家流で立礼席のお茶席が設けられた。和服姿の茶道協会の皆さんが、お菓子とお抹茶を運びながら、外国人や日本のおじさんたちの不慣れな所作に親切に指導を繰り返している。当初予定の50人分の倍以上の100人を超す人たちが日本伝統の味を試みた。

お茶席を設けた茶道協会では、「発足したばかりで、国際交流協会の事業に協力できて喜んでいます。お抹茶を頂いたことのない外国人も日本人も皆さん、おいしい、甘いといってくれたので、点て方、お湯加減がちょうど良かったからではないかと、一同ホッとしました。」というコメントを寄せてくれた。

★芸文協の皆さんによる和服着付けショー

舞台では、これも日本伝統の和服の着付けショーが華麗に展開された。3人の若い外国人女性のモデルが舞台にならび、芸文協（代表・品田久子さん）の皆さんによる手練の技で、5メートルの金糸の帯が数分でモデルさんの背に蝶のように纏められた。会場からはタメ息がもれる。食い入るように見入る外国人女性らの姿もあちこちにいた。

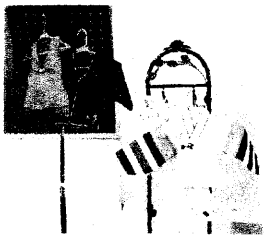
韓国流の生活文化を知ろう

今年のＫＩＦＡ語学講座のハングルを担当された李賢貞（イヒョンジョン）さんに、韓国の生活文化について話していただいた。李先生は韓国の大学の日本語学科で学び、日本の大学院でも日本語について研究、来日して７年、いまは千葉に住んで韓国の食文化を通して交流の輪を広げている。

11月５日、中央公民館で行われた「外国文化に親しむ会」には、数年来の韓流ＴＶドラマ、映画人気で韓国への関心が高く、観光に行ってきた人、予定の人もいて、定員を超す参加者が集まった。

李賢貞さんに聞く

会場には李先生持参の韓国の子どもたちの衣服や靴、靴下など陳列、参加者は興味深く眺めていた。ブレークタイムには、韓国伝統のお菓子、日本の落雁に似た・韓果（ハングア）とトウモロコシのお茶を頂きながら、質問も続出大いに盛り上がった。



韓国の伝統衣装を着用して登場した李さんは、この代表的衣装について、韓国の韓という字と服という字で韓服（ハンボク）ということを自らの衣装で紹介。日本ではチマ・ジョゴリで知られている。チマとはスカートのこと。ジョゴリは上着のこと。韓服はすっと伸びた直線と柔らかい曲線を調和させたラインと、鮮やかな色彩が、その美しさを一層引き立たせるのだという。基本色は白だが季節、身分によって着る作法や素材、色が違う。結婚式や誕生日など特別な日には、お金持ちもそうでない人たちも、貴族が着るような派手な色や装身具で精一杯おしゃれをするという。ジョゴリには色鮮やかな装身用小物があり、なかでも代表的なものはノリゲで形や色でさまざまな意味がこめられている。

子どもが１歳の誕生日を迎えると、色鮮やかな民族衣装を着せて盛大にお祝いをする。悪い気を防いで無病長寿を祈る意味をこめ、色鮮やかなジョゴリを着せる。古くから伝わる五色、青、赤、白、黄、黒が使われる。結婚式とこの誕生日のジョゴリは親からのプレゼント。

韓国の土地は70％が山地で、住居地が不足している。そのため高層マンションが人気で、投資にも生活にも市民のステータスになっている。下宿から徐々にグレードアップしていくのが、韓国民の賢い投資の仕方なのだという。ドラマに出てくるような広大な邸宅はそんなに多くはないとも。

韓国料理の主食はご飯。多くは白米を食べるが、味と栄養のために黒豆や麦・大豆などさまざまな穀物を入れて炊く人も多い。おかゆは栄養価の高い食品とされ種類も多い。食事のときや酒席では、目上の人の座る位置は一番奥と決まっている。目上の人より先に食べ始めることはない。お酒も横を向いて手で口を隠して飲まなければならない。立ちひざが正式な座り方で、まず目上の人が最初に箸を持つ。食器は手に持たない。テーブルの料理を直接、スプーンやハシで口に運ぶのがマナーだ。日本で鍋料理のとき、小皿なしで鍋から具を直接口にするのと同じ要領である。

儒教の教えがいまも生活全般に息づいている韓国。父母、目上の人、年長者への礼節が食事をはじめ、生活文化の基本的マナーになっていることを知った。同じ儒教の国である日本の現状に比べ、大いに考えさせられた。

（Ｔ、Ｙ）

国際交流へ「小さな芽が育つ」

子ども英会話教室・楽しい「スマイリーキッズ」

３回目となるＫＩＦＡの子ども英会話教室「スマイリーキッズ」が、10月15日（土）から12月10日（土）まで全７回開かれた。最近の幼児英語学習熱の高まりから、低学年クラス（小１から小３）には定員に対し３倍もの応募があり、４・５年クラスとともに12人ずつのクラス編成になった。講師は昨年に続いて増田千佳先生。

初日の様子は、低学年クラスは最初のうち、緊張しているようだったが、10分もたたないうちに大きな声が出るようになり、レッスンを楽しむ雰囲気になっていった。高学年クラスには、リピーターの子供たちも多く、増田先生とのレッスンを心待ちにしていたようで、最初から意欲的に取り組んでいる。先生がわざと名前をまちがえて呼ぶと「No! Iam…….」と、はっきり答えているのにはビックリした。帰りには、口々に「楽しかった～」「See you!」と別れていった。

英会話学習で定評のある増田先生は、無理に覚えさせるような詰め込み教育はしない。まずは、緊張して壁際に座り込んでいる子どもたちの、不安な気持ちを取り払うことからはじめる。「さぁ、みんな集まって～」。勉強する前のストレッチ体操を始める。「やれ、やれ！体操かぁ」。これで皆の気分も落ち着く。50分の授業中、日本語はほとんど使わない。

「Miss.chika！I, m Makiko」などと順番に発声させていく。

ひと通り先生との会話が終われば、つぎは輪になった隣りの人に話しかける。こんどは数字の練習が始まる。「one. two. three.～ten」まで順番に発声する。つぎはtenから逆戻り。それから奇数のみを発声したり、偶数のみを発声したり、ひとつ飛ばしで言ったりと、数字だけでもやり方はいろいろあるもんだなぁ。しかし皆、ちゃんと覚えている。

増田先生のやり方は、会話とジェスチュアーの一本でいく。文字や教則本で暗記させる方式は、どうしても「勉強をしている」という感覚を抱いてしまうものだ。「すぐに使える英語」とは、歌や体操、ゲームなどを通じて英語感覚を身につけることが大事なんだ、ということが理解できる。今年も国際交流への小さな芽が育ちはじめた。　（S・O、C・W）

『KIFA英会話サロン』開催
“外国人と会話で楽しもう”

外国人パネラー（数名）を中心に身近な暮らしの話題を“英語で語り合う”『KIFA英会話サロン』を開催します。

日時：2月26日（日）午後1時30分～3時30分
会場：中央公民館・学習室1
会費：ＫＩＦＡ会員：500円　一般：800円

★問い合わせ：Tel 047-445-1141（内線550）
　　：Fax 047-441-9400
★詳しくは「広報かまがや」2月15日号を参照ください。

編集後記

私事だが、10月に手術をして、胆のうを除去した。全身麻酔から覚めたとき、「ああ、生きているんだ」と、単純に感動した。11月のＫＩＦＡパーティ、久しぶりにビールを口にした。「ああ、飲めるんだ」と、妙に意を強くした。

「今年のＫＩＦＡパーティはよかった」と参加者の評判はいいようだ。昨年の”不適切ＢＧＭ”や”食料不足”などのデキゴトがなかったのは何よりだ。メリハリのある、抑制が効いた、バランスの取れた演出や雰囲気づくりに、ボランティアの地道な努力があった。

外国人の参加者は11ヵ国、30人を数えた。国別のベスト5はペルー7、中国6、バングラデッシュ5、フィリピン4、コロンビア2人。彼らは外国人の目でどんな感想をもってくれるだろうか。

鎌ケ谷市の、外国人登録人口（平成15年12月31現在）総数は933人である。この人たちの主な国籍は韓国・朝鮮223、フィリピン192、中国155、ブラジル50人がベスト5である。

この2組の数字に想像力を働かせたい。そして、鎌ケ谷市に在住の外国人の声を「ＫＩＦＡ　Plaza」に積極的に取り上げることにより、2006年のＫＩＦＡ活動に反映していければいいと思う。　（K・H）

事務局からお知らせ：
事務局は12月29日（木）～1月4日（水）まで正月休みとさせていただきます。